



# 日本洋書協会

JAPAN ASSOCIATION OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

FEBRUARY 2020  
REPORT MAGAZINE

会報誌 | vol. 54 no. 2

Published by JAIP 1-1-13-4F, Kanda-Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051

e-mail:office@jaip.jp

## 新年賀詞交歓会

倉上 雄一（タトル出版）

今年の新年賀詞交歓会は1月10日（金）に日本出版クラブの4階宴会場（千代田区神田神保町）にて、会員24社52名の方々にご参加いただき盛大に行われました。昨年のサマーパーティーより同会場を利用するようになり、賀詞交歓会では今回がはじめての利用となりました。出版クラブビルが一昨年の2018年8月竣工し、それに伴い日本出版クラブ事務所とクラブホール・会議室は、新宿区袋町から千代田区神田神保町に移転しました。本の街＝神保町という好立地であり、出版業界のイベントには絶好の施設だと思います。

午後6時すぎより、文化厚生委員の山田氏（トライアログ・エデュケーション）の開会の挨拶で始まり、理事長のグレシャム氏（MHM）より乾杯のご挨拶をいただいてパーティーが始まりました。年始のご挨拶にはじまり、たくさんの美味しい料理と多種にわたるドリンクを楽しみつつ、参加者の皆様の会話ははずんでいらっやいました。中締めには河村氏（丸善雄松堂）のご挨拶と一本締で8時過ぎに閉会となりました。

グレシャム氏、河村氏ともに挨拶にて、「各々が洋書協会の為になにができるのか？会員一人一人が考えてほしい」旨をおっしゃっていました。出版業界全体が厳しい環境の中で、洋書業界も例外ではありません。会員企業も年々減少していく中で、今一度JAIPの存在理由、意義を考えてほしいと、両氏は呼びかけたのだと思います。

現状今のJAIPは、主な活動が会員間の親睦が中心であるので、課題の一つでもある新規の入会を促すことに繋がりにくい側面があります。親睦も重要ですが、ビジネスにつながる部分をどのようにア



ピールしていくかが重要です。

一方この課題への取り組みも少しずつ進行しています。例えば、東京国際ブックフェアの開催中止以降、神保町ブックフェスティバル、洋書まつり、への参加はビジネス的側面のみならず、一般の読者とのつながりも出来はじめており、協会外への認知を広げるのに一役買ったと思います。

また、昨年の暮れに開催したJAIP主催のオープンアクセスについてのセミナー「オープンアクセス書籍の動向とOAの現状」は、情報収集の場として魅力的であったと思いますし、実際に多くの参加者にも恵まれました。このように新しい取り組みが増えているのも事実です。今年も各会員がアイデアを持ち寄り、「ビジネス面での効果」、「協会外への認知」を増せればと、年頭の挨拶を聞き感じた事でした。この新しい年がより佳き年になるよう心より祈念致します。

## JAIPセミナーレポート 2020年12月18日(水)

### 「オープンアクセス書籍の動向とOAの現状」

今回のセミナーに参加した理由は、OA書籍の最新状況を把握すること、そして京都大学の取組事例から、OA書籍の今後の可能性についてヒントを得たいと期待したからです。講師の天野氏は、九州大学で図書館員としてのキャリアを積まれた後、現在は京都大学でリサーチアドミニストレーター（URA）としてご活躍されています。図書館と研究支援の両方の視点から、書籍のOA化について、ご見解をお伺いする貴重な機会となりました。以下、筆者から見たセミナーのエッセンスを概要として記述し、若干の感想を加えて参加報告とさせていただきます。

セミナーでは、OA書籍について、世界的な動向の紹介と京都大学での取組が紹介されました。世界的な動向としてOA書籍は増加傾向にあり、出版社数は5年で倍以上、出版点数は6倍以上に増えているとの説明がありました。2019年に出版されたOA書籍は26,145点、出版社数は365社になります。書籍のOA化のパターンは3種類紹介されました。一つめは、図書館のメンバーシップ制や特定分野の研究者コミュニティでお金を出し合ってOA書籍を支えているパターンです。従来の書籍販売モデルでは200-400部程度の出版部数にとどまり、研究成果が十分に発信されていないと感じた大学の研究者が設立しました。二つめは、大学主導で博

士論文などをOA書籍として出版（主に図書館が担当）するパターンです。三つめは、著者支払い型のOA書籍の出版です。著者支払い型のOAでは、De Gruyter、Cambridge University Press、Oxford University Press等の大手出版社から、1冊当たりの著者負担金額が65万円～250万円でOA書籍が刊行されています。

京都大学では、二つめの大学主導のパターンを試験的に実施していました。京都大学学術出版会と京都大学リポジトリのKURENAIによる共同プロジェクトで、2008年から2012年にかけて16冊のOA書籍がKURENAIで公開されたこと、そしてアクセス数が多く、改訂版を出したタイトルもあったことが紹介されました。

セミナーを通して、研究者の成果をより多くの人に届けたいという希望を実現する新しい手段として、今後OA書籍の需要が拡大していく可能性を感じた一方で、現時点では著者負担金額が高額であること、また、メンバーシップ制で限られた参加者内で運用されていることなど、研究者が個人で検討できる環境はまだ整っていない状況であるとの印象を受けました。今後、検討しやすい契約モデルや、誰にでも開かれたプラットフォームが整備されると、多くの研究者が書籍のOA化を選択していく可能性を感じました。

(丸善雄松堂株式会社 神保 恵美)



写真：京都大学URA 天野氏

### 「オープンアクセス図書の動向とOAの現状」

2019年12月18日に表題のセミナーが出版クラブで開催されました。セミナーでは、京都大学URAの天野絵里子氏が登壇し、研究成果を広く共有することを可能にするオープンアクセス(OA)の成長、OAが国際的に研究へのアクセスのしやすさと認知度の向上に寄与すること、およびOAに関する日本の現状など、貴重な知見を発表されました。シュプリンガー・ネイチャー(当社)は、世界で最も多くのOA研究を公開し、OA出版をリードする出版社です。本稿において当社からの所感を交えてセミナーをレポートさせていただきます。

天野氏はセミナーにおいて、研究のOA出版に関して学界が懸念する問題として、ハイブリッドジャーナルに出版されるOA論文に対して、OA出版料と購読料の両方が課金されている可能性(いわゆる二重払い)など、公正な論文掲載料(APC: article processing charge)を含む価格設定に対する懸念などを提起しました。

研究ができるだけ迅速にすべての人に公開され、読まれ、活用され、発見が進むことが理想です。OAで出版された研究は、より多く引用・ダウンロードされ、購読誌に発表された研究よりも幅広い影響を与えます<sup>1</sup>。

ハイブリッドOAとは、一部の論文がOAであり、他の論文がクローズドアクセスのまま、ジャーナル全体が購読ベースである出版モデルのことを意味します。ハイブリッドジャーナルは、購読ベースのジャーナルに公開する際に、研究者に(論文レベルで)OA出版できるオプションを提供しています。論文をOAとして公開するために、著者は研究助成金などからAPCを支払います。これらのジャーナルの購読価格設定では、いわゆる二重払いを回避するために、ジャーナルで出版されているOA論文の割合が考慮されています。当社では、反二重

払いのポリシーを厳守しており、価格設定に関するポリシーを倫理的かつ透明性をもって運用し、同じコンテンツに対して読者または著者に2回課金することを回避しています。

セミナーでは、近年話題となっているOA書籍についても紹介されました。天野氏は、日本の大学図書館の電子書籍の数はまだ比較的少なく、そして、多くの研究者がOA書籍を出版するための書籍掲載料(BPC: book processing charge)を支払う資金の不足などの問題を提起しました。当社の統計では、OAで公開していない書籍よりもOA書籍が平均で50%多く引用されていることが明らかになっています。また、書籍をOA出版する資金を探している研究者向けの専用ウェブページを公開しています。

最後になりましたが、このようなセミナーを開催して下さった主催者の皆さま、および天野氏に深く感謝申し上げます。出版社として、研究コミュニティと協力しながら、持続可能な方法でオープンサイエンスを実現する学術流通の健全なあり方を探求し続けたいと思います。

(シュプリンガー・ネイチャー 宮崎亜矢子)

<sup>1</sup> <https://www.springernature.com/gp/open-research/about/oa-effect-hybrid>



### ● 総会のご案内 ●

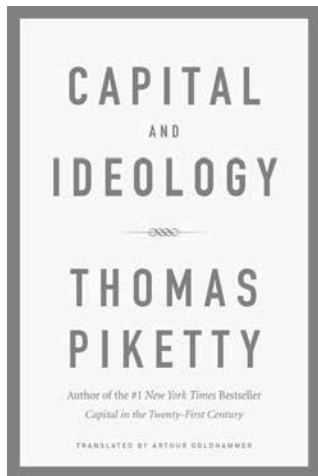
2020年度の定時総会は下記にて行います。

日時：5月29日午後4時30分より

会場：出版クラブ

終了後懇親会を行います。

ベストセラー『21世紀の資本』の著者ピケティ待望の新刊を英訳



## 資本とイデオロギー

### Capital and Ideology

Thomas Piketty

Translated by Arthur Goldhammer

MARCH 2020 Hardcover 1120 Pages 158 illus., 11 tables

ISBN: 9780674980822 \$39.95

学術書として異例のベストセラーにして、今世紀最も重要な書とされる『21世紀の資本』を引き継ぐ内容  
経済活動という視点からグローバルな歴史を俯瞰し、現代政治を厳しく批判、大胆且つより公正な経済新システムを提案

Thomas Piketty's bestselling *Capital in the Twenty-First Century* galvanized global debate about inequality. In this audacious follow-up, Piketty challenges us to revolutionize how we think about politics, ideology, and history. He exposes the ideas that have sustained inequality for the past millennium, reveals why the shallow politics of right and left are failing us today, and outlines the structure of a fairer economic system.

Our economy, Piketty observes, is not a natural fact. Markets, profits, and capital are all historical constructs that depend on choices. Piketty explores the material and ideological interactions of conflicting social groups that have given us slavery, serfdom, colonialism, communism, and hypercapitalism, shaping the lives of billions. He concludes that the great driver of human progress over the centuries has been the struggle for equality and education and not, as often argued, the assertion of property rights or the pursuit of stability. The new era of extreme inequality that has derailed that progress since the 1980s, he shows, is partly a reaction against communism, but it is also the fruit of ignorance, intellectual specialization, and our drift toward the dead-end politics of identity.

Once we understand this, we can begin to envision a more balanced approach to economics and politics. Piketty argues for a new "participatory" socialism, a system founded on an ideology of equality, social property, education, and the sharing of knowledge and power. *Capital and Ideology* is destined to be one of the indispensable books of our time, a work that will not only help us understand the world, but that will change it.

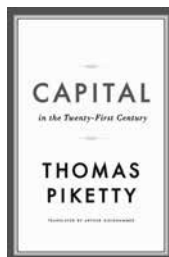
- Also of interest -

21世紀の資本

Capital in the Twenty-First Century

2014 816 p. Hardback 9780674430006 \$39.95

2017 816 p. Paperback 9780674979857 \$20.50



  
Harvard  
University  
Press



1-1-13-4F Kanda Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051

Tel: 03-3518-9181 Fax: 03-3518-9523

日本洋書協会会報 vol.54 No.2(通算563号) 発行日2020年2月1日 編集者 遠藤 尚子

発行所 日本洋書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-13 (株)MHM内 TEL 03-3518-9631 FAX 03-3518-9523

URL:<http://www.jaip.jp> E-mail:[office@jaip.jp](mailto:office@jaip.jp)